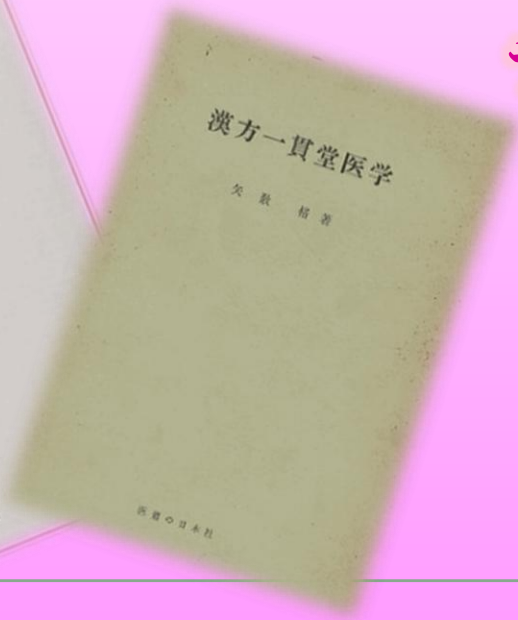


2025年「仲景杯」全国学生漢方選手権大会

東京女子医科大学 東洋医学研究会

漢方医学的評価に沿って発表する



- チーム女子医大 医学部
- 3年 山本 怜
 - 3年 秋田 孝子
 - 3年 望月 咲里
 - 2年 赤嶺 佑奈
 - 2年 吉久 保まどか
 - 6年 菊地 雅子

1.四診

【望診】

診察時はすぐに泣き始めることが多く、予防接種の際は体をくねらせ強く抵抗して大きな声で泣き叫ぶ。皮膚は全身乾燥し、掻痒感あり。舌は白苔少+。両鼓膜は混濁+、軽度発赤+。咽頭後壁発赤+、咽頭後壁リンパ濾胞多数++、扁桃やや腫大+、発赤+。指紋は紅色である。

【聞診】

肺聴診は正常。

【問診】

主訴：繰り返す発熱（通院歴有）。生後8か月から毎月発熱を繰り返して、たびたび併発している。鼻汁は黄緑色へ、また中耳炎をたびたび併発している。診断歴有。抗生剤（アモキシシリンなど）を複数回使用。食べ物の摂取量が減り、嫌いかさしい。夜間の鼻閉で眠りが浅い。母親も扁桃腺炎による通院歴有。

今回：4日前より透明鼻汁、昨日から黄緑色が持続・夜間は鼻閉と鼻汁でぐずり抱っこを求める。

【切診】

腹部は軟（※乳幼児のため成人のような腹症は認めにくい可能性がある）。
頸部に小麦～小豆大のリンパ節を多数触知。

鼻汁・鼻閉：辛夷清肺湯の処方により改善

解毒証体質

2.方証相対

【表裏】

感冒様表証の反復→
裏熱化・増悪反復
⇒半表半裏

【寒熱】

- ①黄色鼻汁
 - ②咽頭発赤
 - ③鼓膜混濁
- ⇒熱

【虚実】

- ①体格普通
 - ②繰り返す発熱・鼻汁
- ⇒やや虚

【気血水】

わずかに

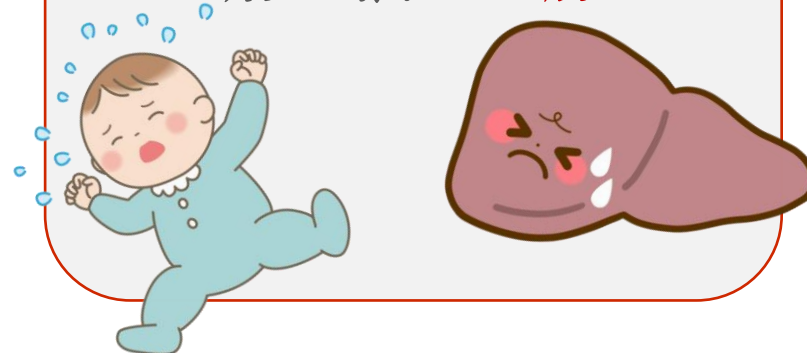
- ①気虚
(易感染性)
- ②血虚(皮膚乾燥)
- ③水滞(鼻汁)

【六病位】

- ①半表半裏の熱証
 - ②舌診で白苔の付着
- ⇒少陽病
→柴胡剤の適応

【五臓】

疳の強さ→肝



3.処方

裏熱虚証・少陽病、**解毒証体質**の**幼年期**に適応

☆A：柴胡清肝湯

「…このような小児は虚弱なもので、つねに風邪気味であり、気管支炎、扁桃炎を発病しやすく、肺門淋巴腺肥大と診断される小児が柴胡清肝散証に相当するのである。また、風邪の後中耳炎を起しやすく、アデノイドを起し易い。」（漢方一貫堂医学 第一編第三章）

《鑑別処方》

①黄耆建中湯

本症例は実熱傾向で
あり適応外

②小柴胡湯

虚証には刺激が強く、
連用には不向き

③排膿散及湯

反復性の症状には
虚を補えない

④黄連解毒湯

扁桃炎や中耳炎に対
する作用が期待×

《服薬指導》

～小児への薬用量～（貝原益軒『養生訓』より）

①現代医学・漢方を問わず通常は成人の1/3～2/3

②煎じ薬の場合（一服分）：水五十～五十五匁（約187～206g）

③利剤：盃一杯分の水で煎じて七分量にし、2～3回に分けて服用

少量の白湯（シロップ可）で
練り、頬の内側になすりつけ、
すぐにミルクや水を飲ませる
→飲ませやすい！



4.養生指導

・小児は純陽で陽気が盛んであるから、皮衣や絹を着せたり、厚着させて熱を包んではならない。

つねに**薄着**にするほうがよい。熱を逃がすため、服は脇の下を開けて着せるようにする。

・**三分の飢え、一分の寒**を与えねばならない。

三分の飢え、一分の寒とは、十のうち三つの食を控え、十のうち一つほどの着衣を控えるということである。

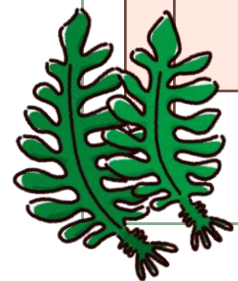
・気が穏やかで暖かなときは、児を抱いて風にあて、日光を浴びせるようにする
(香月牛山『小児必用養育草』より)

《食事指導》

・海藻：**頸に出来る腫瘤、気の停留、熱の鬱結**などを排除する。特に**ホンダワラ（馬尾藻）**がリンパ腺腫によい。

・葱：茎は**傷寒、喉痺不通**＜扁桃炎、咽喉炎などの疼痛で食物の通らぬ症状＞を治すのに効がある
(医心方食養篇 卷第三十より)

これらの食材を取り入れた食事を積極的に与えるとよい。



5.まとめ

《本症例》

- ・小児が漢方一貫堂医学における解毒証体質(柴胡清肝散証)を呈した典型的な例。

【方証相対】

- ・半表半裏証、熱証、虚証、また六病位を少陽病と診断した。
⇒小児期の解毒証体質者に適応する処方であり、また方証相対に著しく矛盾することもない
柴胡清肝湯を選択した。

【服薬・養生指導】

- ①小児には成人の1/3～2/3量を2～3回に分けて服用させる
- ②薄着にさせて三分の飢え、一分の寒を与える
- ③海藻や葱を積極的に摂らせること
などの指導を行った。

6.参考文献

- ・大塚敬節,『新装版 漢方医学』,創元社
- ・一般社団法人日本東洋医学会,『漢方医学大全』,静風社,2023
- ・貝原益軒著,伊藤友信訳,『養生訓 全現代語訳』,講談社,2018
- ・望月 学訳,『医心方 食養篇 現代語訳付原文』,出版科学総合研究所,昭和51年
- ・矢数 格著,『漢方一貫堂医学』,医道の日本社,平成3年
- ・大塚敬節著,『漢方と民間薬百科』,主婦の友社,1966
- ・日本漢方生薬製剤協会編集,『一般用漢方製剤使用上の注意－解説－』,じほう,平成14年
- ・高山宏世編著,腹証図解 漢方常用処方解説[改訂版],東洋学術出版社,2023年
- ・香月牛山著,中村節子翻刻・訳注,『小児必用養育草』,農文協,2016